エントリー団体 No.7

栃木県立佐野高等学校 SGクラブ









活動期間

2021年4月~(年40回ほど活動) 3年間継続予定

構成人数 高校生9名

SDGsテーマ





推薦メッセージ

本校には SG クラブというものがあり、現在3グループが熱心に活動していま す。1つ目のグループは、ハンセン病に関する偏見や差別をなくす活動をし ています。2つ目のグループは困っている外国人に対して使う「やさしい日 本語」の普及活動を行っています。3つ目のグループはスリランカの子ども たちへのオンライン教育支援を模索しています。

3つのグループはそれぞれ研究の方向は違いますが、現代の社会課題をなん とか解決の方向に進めたいと邁進しています。ぜひ、応援をよろしくお願い します。「学び」と「SDGs」を両立した活動を推薦します。

栃木県立佐野高等学校 教諭 大嶋 浩行

活動內容

ハンセン病班

重大な人権問題の一つであるハンセン病差別問題。

私たちはそれを2度と起こさないよう後世に伝えていく方法として、アクティビティを用いた授業を使うのが良いのではないのかという考えのもと、より効果的な伝え方について研究しています。

現在は実際に授業を行い、その後のアンケートの結果や生徒達の反応からよりよいアクティビティの考案や授業の内容を研究しています。

やさしい日本語班

まず、日本人と在日外国人との間にコミュニケーションを生み出すためのツールとしてやさしい日本語に着目した。

やさしい日本語を使うことによって、日本人は他言語を学ぶよりも会話をすることへのハードルが下がり、在日外国人の方々にとっては日本に住んでいく上で必要な情報を得る場、最低限必要な日本語を学ぶ場をつくることができると考えたからだ。

現場の理解のために、既存のやさしい日本語コミュニティーへ参加し、実際に在日外国人の方々と話し、意識すべき点や気づきを私たちの側でまとめ、またやさしい日本語をニーズに合ったものに改めている。

また、日本人がその存在を知らないと会話が生まれない

ので、日本人の側へのやさしい日本語の周知活動をパンフレットの小学校への配布計画やInstagramでの日本人に向けてのやさしい日本語についての投稿の作成を行っている。

その際には今後の地域を担う若い世代がやさしい日本語について知っていくことで、今後の活発なコミュニティーづくりにつなげられるようにしていくことを目標にしている。

スリランカ班

スリランカ班では、スリランカの貧困問題に貢献することを目標として活動しています。

現在スリランカは、物価の上昇、農園で働く人の低賃金など、様々な問題を抱えています。

その中で貧困問題に焦点を当て、現地の人に対して力になれることがあるのではないかと考えました。具体的に、日本人に対する数リランカについての認知度を高めることと、スリランカの人に支援をするという事を目標に活動しています。

現在はまずは学校でスリランカに対する知識を広めるため、スリランカについての情報を効率的に見てもらう方法を模索しています。長期休みや放課後には、スリランカで有名なカレーを食べに行く、スリランカの方に話を聞くなどし、自分らの理解から深めています。

学校外のイベントでも、スリランカについて理解を深める活動を行っています。

01. 活動をはじめたきっかけ

ハンセン病班

昨年春に行われた「ハンセン病問題に関するシンポジウム」に参加したことで差別問題についての意識が高まり、この差別を後世に伝えていけないかという思いからこの研究を始めました。

やさしい日本語班

やさしい日本語教室の生徒の在日外国人の方の「日本に20年近く住んでいたけれど日本語が全く話せないままだった人を知っている」という言葉から、地域の日本人と在日外国人の方々との交流不足は深刻な問題であり、同時に解決すべきだと思い研究を始めました。

スリランカ班

先輩方の先行研究がスリランカの貧困問題について活動をしていました。そこで、まずスリランカの認知度を高めて問題解決に繋げていきたいと思い、スリランカについて広める活動をしようと思ったことがきっかけです。

02. 活動から学んだこと・感じたこと

ハンセン病班

第一にこのような壮絶な差別問題が起きていたことに驚きました。そして、その差別が起きてしまった原因を考えていくと、現在も起きてしまっている差別にも通じるものがあるのではないかと考えました。実際に授業等をするとそれまで興味を示さなかった人たちもしっかりと聞いていたため、このような活動は続けていく価値があるのだと思います。

やさしい日本語班

在日外国人問題は実際は非常に近くにあり、私たちの声掛けや意識の変化が問題解決に役立つのだということ、私たち含め在日外国人への理解が足りないことや知識の不足が問題を招いてることを強く感じました。

スリランカ班

イベントで、スリランカを広める活動やスリランカ料理屋が出店している所を見てきましたがやはり認知度が低いことを感じました。また、スリランカ人の多い足利市のスリランカ料理屋も、一部の人たちにしか知られていないことがわかりました。

03. 継続するためのこれからの工夫

ハンセン病班

今後はアンケートの結果等からより効果的なアクティビティの考案をしていくとともに、全国の教員の方々が簡単に利用できるような授業フォーマットに作成をすることで活動を継続させられたら良いと思います。

やさしい日本語班

発表を行ってきた中で得たことを研究の軸として、自 治体のごみ分別表や処方箋のやさしいにほんご化など を行い、実際それの効果があるかどうかを定期的にア ンケートを用いて調査し、この研究が実用的であるこ とを伝えていきたいと思います。

スリランカ班

気軽にみられるようなスリランカについての情報提供を続けていきたいです。堅苦しい記事などにするのではなく、継続してみてもらえるようなものにし、私たちの活動を広めていきたいと思っています。

活動の略歴

ハンセン病班

```
2022 3月 シンポジウム11月 授業2023 1月 シンポジウム二回目
```

やさしい日本語班

```
2021 7/1 こどものとなり佐野 熊倉百合子様へのヒアリング
2021 7/12 佐野市国際交流協会訪問
2022 10月 足利市国際交流協会 交流会パンフレット作製(やさしいにほんご化)
2022 11/12. 13 FOCUS2022
2022 11/21 立命館アジア太平洋大学 本田明子教授へのヒアリング
2022 12/18 全国高校生フォーラム
```

スリランカ班

2022年 9月3日 文化祭でスリランカ産紅茶のクッキーを販売 2022年 夏休み、放課後を使い、3回ほどスリランカ料理の調査